

9月20日から動物愛護週間



「殺処分」減少の舞台裏  
ペットの命は  
預かりもの

899頭一。久留米市保健所「動物管理センター」ができた平成20年度に殺処分された犬や猫の数です。それが29年度は105頭。昨年11月から今年4月までの殺処分はゼロでした。犬や猫の引き取りや迷い犬の捕獲などを行う同センターは、大切な命をつなごうと日々奮闘しています。

☎動物管理センター (☎0942・30・1500、FAX 0942・30・1788)



取材当日も捕獲依頼や譲渡の相談などの電話が多数ありました

持ち込み数も大幅減  
殺処分を減らそうと、21

「20年度は、まさに抑留施設でした」と同センターの馬場修さん。飼い主の元に帰れない犬猫は殺処分しなく、保護する期間は最短で3日間でした。「犬ごろし」と言われることもありました」と言います。殺処分に当たり、実際に処分を行う県に提出する「動物収容依頼伝票」には、獣医師の職員が署名・押印します。「死刑執行」にサインをするようなもの。泣きながら帰宅する職員を何度も見ました」と話します。殺処分が大きく減った背景に、同センター職員の「命への思い」がありました。

涙する職員 後を絶たず



動物収容依頼伝票は、殺処分に出すたびに提出します

年度に「譲渡事業」を開始。同時に保護期間を延ばしました。「餌やりや掃除、散歩などで休日も交代で出勤。獣医師は動物の厳しい体調管理を求められます。でも、尊い命をつなぐために必要なことと言います。一方で、「毛の色が気に入らないだけで持ち込んだ人が居ました」と、減らさない持ち込みに頭を抱え、飼い主の意識に疑問を感じたことがあると言います。「保護できる数は限界がある。一頭持ち込んだら、その分一頭が殺処分されることに気付いてほしい」。



開設時から同センターで働く馬場さん。これまでに多くの保護犬・猫を世話してきたそうです

人とお動物の支援基地に  
引越越し、病気、高齢化。飼い主の環境の変化のしわ寄せはペットへ向かいます。「動物を飼うことは命を預かること。金も手間もかかる。簡単ではないんです」。譲渡の際、飼い主になる人の生活環境や家族構成などを確認し、譲渡できるか見極めます。「飼う時は今後の暮らしを現実的に考えて」と馬場さんは訴えます。そして、センターの未来像を次のように話しました。「飼えなくなった人は、無責任に投げ出さず、自分で何とかしようとしてほしい。私たちは、そんな時の支援基地になりたいのです。飼い主に持ち込まれるペットがゼロ頭になればいい」。



福岡ソフトバンクホークス × 広報

# 牧原大成 選手

「久留米を歩いてても、案外気付かれないんですよ」と笑顔で話すのは、久留米市出身、現在福岡ソフトバンクホークスで活躍中の牧原選手です。



■牧原大成 (まきはら たいせい) 平成4年、田主丸町生まれ。中学時代まで市内の野球チームに所属。22年ドラフト会議で育成5位指名。今シーズン、選手層の厚い同球団で連続スタメン出場を果たす。50mを5.8秒という俊足を生かし、次世代の「安打製造機」として期待される。

福岡ソフトバンクホークスと久留米市は、まちのにぎわいづくりなどのために包括連携協定を結んでいきます。今号から共同連載をスタート。お互いの魅力や交流の様子などを紹介します。

17月に1軍昇格してから、プロ入り初ホームランや連日の猛打賞など大活躍ですね。今の気持ちは？

(牧原選手、以下略) 出場選手登録後は、全試合に出場できて(8月29日現在)、結果も残せている。正直自分でもびっくりしています。

2軍の時は「きれいにプレーしたい」と思ってたけど、今は「内野安打でもヒット」と、自分の持ち味を出せているかな。1軍で出続けるには、自分の立ち位置

を意識してアピールし続けないといけないんです。

「田舎ですかね。でも僕、都会より田舎が好きなんです。実家に帰ったらゆっくりにしたい。最近、親が頼まれたサイン色紙が家に積まれて、書かないと怒られるんですよ(笑)。

久留米には、今もよく帰っていますか？

2日前に帰りましたよ。行きつけの店で髪を切った、映画を見ました。2軍の時はたびたび食事もしました。ラーメンも焼き鳥も久留米の店の味が好き。地元の田主丸にお気に入り焼鳥屋があって。その雰囲気が好きなんです。小さい頃は、よく川で

遊んでました。筑後川河川の自然風景がとても好き。中学校の時、河川敷のサイクリングロードを通して、合川の映画館まで自転車で遊びに行っていました。

今地元でやりたいことは、野球選手だから、やっぱり

今、チームの状態はとも良いです。自分も活躍して、逆転優勝を果たしたいです。個人的には、残りのシーズン全試合出場を狙います。久留米市民の皆さん、応援をお願いします。

※シリーズは不定期に掲載します

### 校区に招待券やグッズを提供

抽選結果に見入る子どもたち。ユニホームが人気

福岡ソフトバンクホークスは、「ホークスだより」を各世帯に配布する校区に、観戦招待券やレプリカユニホームを提供する「公式戦招待・ホークスだより事業」を行っています。

8月25日、小森野校区夏祭りの景品にはレプリカユニホームや観戦チケットがずらり。同校区まちづくり振興会副会長の龍頭京子さんは、「2年目で楽しみにしている人は増えました。昨年、招待券が当たった80歳代のおばあちゃんが、ドームに試合を見に行ったそう。こういう連携があると球団が身近になりますね」と話しました。

■「公式戦招待・ホークスだより事業」に興味のある校区は、福岡ソフトバンクホークス総務部渉外課の帆足さん (☎092・847・1953、FAX 092・847・1664) に問い合わせください